

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年8月9日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2779101589
法人名	特定非営利活動法人 訪問介護ほぐち
事業所名	グループホームまつひろ
所在地	大阪市淀川区三津屋南2-18-5 (電話) 06-6303-4530

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年7月31日

### 【情報提供票より】(平成19年7月24日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (147,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (147,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

#### (4) 利用者の概要 (平成19年7月24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	69歳	最高	92歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本医院
---------	------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特定非営利活動法人が運営するグループホームで母体法人は訪問介護、居宅介護支援センターも運営しています。運営理念として「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。協力病院の医師と看護師のサポートが利用者と家族に安心感を与えています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4) 開設後2年を経過しましたが、1年前の指摘改善課題に取り組みホームの運営は軌道に乗り利用者には笑顔と落ち着きがみられます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価は運営者が一人で行っています。今後運営者、管理者は、自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善方策の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は町会長、民生委員、家族の参加のもと2ヶ月毎に実施されています。会議では運営状況や生活ぶりや課題について報告し、地域との相互交流、防災対策や避難訓練について話し合っています。今後、行政の担当者や地域の関係者を招請することが望まれます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族が訪問する機会は多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えてしています。利用者の健康や安全に関わる事項について必要の都度電話で家族へ報告しています。また毎月「まつひろだより」を発行送付して、行事や生活状況について写真とともに報告しています。預かり金はなく立替払いをしていますが、少額の場合でも家族に事前連絡し承諾を得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、今まで苦情はありませんが、苦情箱を備え付け申し入れがあればすぐに対応する予定です。
重点項目③	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 開設以来、地元の人々と交流するため、運営者は町会の役員・班長をかってで世話役をこなすとともに、利用者も地元の行事に参加しています。今後運営推進会議を通じて地域とのさらなる交流の要請やホームの役割提供の申し出等を通じて交流を深めていく予定です。
重点項目④	

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者と管理者は運営理念として「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示されています。全職員の参加する月例ミーティングで、運営者、管理者と職員は理念を共有するべく話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	開設以来、地元の人々と交流するため、運営者は町会の役員・班長をかってでて世話役をこなすとともに、利用者も地域の行事に参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ <b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者が一人で行い、職員全員によるの参加・研修等を通じた取り組みはなされていません。	○	運営者、管理者、職員は自己評価を実施する意義を理解し、職員全員による現状の問題点の理解と改善方策の立案を行い、サービスの具体的な改善に取り組むことが求められます。
5	8	○ <b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町会長、民生委員、家族の参加のもと2ヶ月毎に実施されています。会議では運営状況や生活ぶりや課題について報告し、地域との相互交流、防災対策や避難訓練について話し合っています。今後行政の担当者や地域の関係者を招請することが望まれます。		
6	9	○ <b>市町村との連携</b> 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は地域包括支援センターとの交流はしていますが、行政の担当者とは運営推進会議の結果を郵送するだけで直接の交流はありません。	○	市の担当者をホームに招請して理解を深め、運営推進会議に参加してもらうよう働きかける努力が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問する機会は多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。利用者の健康や安全に関わる事項について必要の都度電話で家族への報告をしています。また毎月「まつひろだより」を発行送付して、行事や生活状況について写真とともに報告しています。預かり金はなく立替払いをしていますが、少額の場合でも家族に事前連絡し承諾を得て物品を購入しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、今まで苦情はありませんが苦情箱を備え付け、申し入れがあればすぐに対応する予定です		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、パート職員の離職率が高く、退職者が多い状況です。母体法人からの補充と新人の採用、全職員の努力で比較的短期間で問題の解消をはかることができますが、職員が異動することの利用者への影響の大きさを理解し、今後異動を必要最小限に抑える努力が望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は行われていますが、テーマや受講者は限られています。	○	職員を成長に合わせて育成するために研修するテーマを予め設定し、できるだけ多くの職員が受講できるよう計画的に行うことが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の月1回のグループホーム連絡会に参加し交流をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家庭訪問やホームの見学を通じて馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者が不安を持ち孤立することなく日々の生活を送れるよう、それぞれが得意なことや仕事を持ち、ホーム内で役割を持って生き生きと活躍できるよう支援しています。率先して洗いものをする利用者、仲良しの利用者の食事介助を手伝ってくれる利用者、食事の下ごしらえが得意な利用者、買物が好きな利用者等、利用者が生き生きとし、生活を楽しむような取り組みを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身の洗濯物の数を数えないと納得しない利用者、レッグウォーマーを着けていないと調子の悪い利用者等利用者の思いや意向に合わせた生活を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画で決めた援助項目とモニタリング表にある援助項目が一致していないため、モニタリングについても確実に、かつ定期的実施されず、結果が明確に把握できる方法になっていません。	○	アセスメントの結果を介護計画に反映させ援助項目を決定し、モニタリングを確実に、かつ定期的に行い、利用者と家族の意向を聞き、全職員でカンファレンスを行って介護計画の見直しにつなげていくという業務の流れを確立することが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には1年毎に、状態の変化がある時はその都度見直しをすることになっていますが実際には実施されていません。	○	介護計画は定期的には少なくとも6ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しをすることが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の居宅介護支援センターのケアマネジャーとの連携による情報交換や協力病院との連携で利用者の状態に必要な看護指導を受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望があれば以前からのかかりつけ医師（医療機関）で引き続き医療が受けられ、通院介助もしています。協力病院と連携し夜間や急変時の対応についての体制整備をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルケアを希望している利用者の要望を受け入れる方針で、医師や家族と話し合いをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。食事介助が必要な利用者、自立はしているが食事がゆっくりとした利用者には、それぞれのペースで見守っています。他の利用者の食事のペースが合わず、混乱してしまう利用者については居室で食事をするこでペースが保たれています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎回、届けられる食材を使い職員が調理しています。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。職員は同じものを、スペースの関係で少し時間をずらして食べています。おやつ等を利用者と買いに出かけたり、協力して作ることになっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2回、ゆっくり寛いだ入浴ができています。希望すれば毎日でも入浴可能です。	○	利用者の体調や要望に合わせて週3回程度入浴されることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の吹くたて笛に合わせ童謡や軍歌を歌う利用者、好きな歌手のビデオを見て感極まる利用者、テレビでのど自慢やスポーツ観戦を楽しむ利用者がいます。季節の風物の貼り絵の創作を楽しむ利用者もいます。ただ利用者の生活歴を聞き取り、利用者の個性を活かした役割や楽しみごとの把握が十分でなく、楽しみごとや気晴らしの支援が十分にできていません。	○	利用者や家族の協力を得て生活歴を聞き取り、利用者の個性を活かした役割や楽しみごとを把握し活かすことが求められます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や商店街での買物を楽しんでいます。季節毎の初詣や祭り、花見にも出かけています。年1回家族と一緒にバスを使っての日帰り旅行をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは内鍵方式で利用者は自由に外出ができます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルが作成され、5月に消防署の協力を得て、本年1回目の消防、避難訓練を実施しています。食料と水の備蓄については特別な対応はありませんが冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	食事摂取量、水分摂取量について記録をと っています。栄養バランスについては管理者の 友人である食材業者の栄養士からアドバイ スを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしてい る	玄関まわりには季節の花、観葉植物、絵画が 飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。リ ビング兼ダイニングルームは少し手狭です が、玄関入口ホールのスペースと合わせ明 く開放的になっています。テーブルの上には 生花が飾られ、壁には季節のちぎり絵作品や 行事写真、手作りカレンダーがあり、お香も 焚いています。食卓以外に少し窮屈ですがベ ンチが置かれ寛げる居場所になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのもを活かして、本人が居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが提供しているベッド以外に、居室に はソファ、椅子、タンス、飾り棚、仏壇、 遺影、装飾品、家族の写真、テレビ、使い慣 れた馴染みの古い物や生活用品を各自で持ち 込むことができ、利用者が安心して過ごせる 場所となっています。		